

ホスピタルアートプロジェクト

代表者 高木陽菜（医学部医学科6年）

1. 目的と概要

本事業はホスピタルアートを通じて小児病棟に入院している子どもたち、家族、地域の同世代の子どもたち、医療従事者、参加する学生、アーティスト、企業を繋ぐ活動することを目的としている。入院している子どもたちは、病院あるいは病室から出られないという空間的制約、治療による時間的・身体的制約など同世代の子どもたちと比較して多くの制限がある中で生活している。さらに現在新型コロナウイルス感染症対策のため、ほとんどの病院で面会が禁止され、家族とも十分に面会ができない状況が続いていた。このような状況の中でわたしたちは入院中の子どもたち、同世代の子どもたち、アーティスト、香川大学の学生が協働してアート作品を作り上げる過程を通じて、子どもたちにアートを楽しむ時間と人との繋がりを感じられる場を提供することを目的とし、本プロジェクトを実施した。

具体的には9月の2日間の院内でのアート教室にて小児病棟に入院している子どもたちを対象にアート作品づくりを行った。それを10月は三木町文化交流プラザにて、2月には香川大学博物館にて、こちらは地域の子どもたちを対象としたワークショップを開催し、小児病棟に入院している子どもたちの作品とリレー形式で引き継ぐ形でアート作品づくりを進めた。最終的2月13日～3月23日の日程で香川大学博物館にて特別展を実施するに至った。

2. 実施期間（実施日）

令和5年7月15日から 令和6年3月29日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本事業はアート作品づくりの講師として、アーティストのミズカさんをお迎えした。7月～8月は事業準備を行い、まず9月2日と9月16日に院内にてアート教室を行った。こちらでは本物に触れてもらいたいという願いから土佐和紙を大きく張り合わせて、そちらに背景を色水で吹き付け、そこに飾る葉っぱや鳥パネルといった作品づくりを行った。当日体調の良い子どもは院内プレイルームにて、体調の優れない子どもは病室に

て個別に作品づくりを行い，それぞれに担当の学生がつき，家族や看護師とともにコミュニケーションをしながら制作に取り組んだ。最終的に延べ16名の参加を得ることができた。

次に10月7日には三木町文化交流プラザにて，葉っぱづくりと鳥パネルづくりのワークショップを午前午後の2回開催した。本事業の作品づくりには「自分色を作ろう」というテーマを掲げており，子どもたちが思い思いの色を家族や学生と話し合いながら作ることができた。また，ここでは三木町にある株式会社テルミ・エンタープライズの協力を得て，Tシャツプリント体験を実施し，本事業のロゴマークをTシャツにプリントしオリジナルTシャツを作る体験も行うことができた。

最終的に47名の子どもたちの参加を得ることができた。

さらに2月10日には香川大学博物館にて三木町文化交流プラザのものと同様にアート作品づくりとTシャツプリント体験を行うワークショップ午前午後の2回開催した。最後のワークショップということもあり，県内外から150組を超える応募をいただいたが，会場の関係で抽選となり，最終的に26名の子どもたちとともに最後の作品づくりに臨んだ。

そして2月13日～3月23日の期間で香川大学博物館にて特別展を開催し，作品展示を行った。完成作品とともに小児病棟に入院している子どもたちの自己紹介カードやこれまでの作品づくりに使った品などの展示を行った。さらに博物館内にはメッセージを書きことができるスペースを用意し，作品や特別展の感想を「メッセージの木」として小児病棟に展示できるような展示も行われていた。最終的に展示した作品の全体像写真をTシャツにプリントし，院内アート教室に参加してくれた子どもたちに配布をしている。また，博物館に展示されていた鳥パネルは小児病棟のプレイルームにて現在展示中である。

今回の事業は小児病棟に入院している子どもたちのみではなく，地域の子どもたちも含めて時間・空間を超えた作品づくりをし，アート作品づくりを楽しんでもらうとともに，協同して一つの作品づくりに臨み，コミュニケーションの機会の創出を目指した。参加している子どもたちと学生がコミュニケーションを行うことはもちろんのことであるが，作品が大きくなっていく過程を知ることや博物館でのメッセージを通じて，双方向のやり取りができたと考えている。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本プロジェクトを開始するにあたり、多くの地域の方および大学附属病院のご協力をいただいた。学生のすることということで、始めは実施についてご心配をおかけしたが、病棟にて協力いただいた看護師さんからは、「普段見せない子どもたちの表情が見られた」、「普段やってあげたくてもできないような体験がさせてあげられた」との意見をいただき、ぜひ次年度以降も継続して欲しいとのご希望をいただいた。

また、今回参加してくれた子どもたち配布するTシャツの提供やTシャツプリント体験は株式会社テルミ・エンタープライズのご協力をいただいた。テルミ・エンタープライズの方からは地元の製造業に関わる体験を子どもたちにさせてあげたいとの思いを受け、コラボレーションして活動を行った。こうして地元企業との協力のもとに事業ができたことは大きな成果であった。

また、活動を進めていく中で、三木町の観光協会や三木町にもご協力いただくこともできた。観光協会の方では11月25日の野外イベントMiki Green Out Meetingへの参加をし、ホスピタルアートプロジェクトの宣伝を兼ねてワークショップを行った。三木町には活動の後援と広報誌への掲載や小中学校・保育園・幼稚園へのチラシの配布のご協力をいただいた。こうしたご協力のおかげで地域でのワークショップは定員80名に対し、200名以上の応募があり、十分な宣伝効果があったと考える。

そして本事業は「香大病院 PAPER 「KUH」 vol.03, 裏医学部 NEWS」, 「読売新聞朝刊」, 「四国新聞朝刊」, 「西日本放送ラジオ, さわやかラジオ “知識の神様”」といったメディアに取り上げていただき広く地域社会に知っていただくことができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回の小児病棟に入院している子どもたちや、地域の子どもたちとの活動は私たちにとって大きな学びを得る機会となった。それは事業の計画段階から子どもたちのことを考え、何をすべきか、どのようにしたら目的を達成できるのかを学生同士が多くの時間を割いて話し合い活動を進めたことにより、目標達成のプロセスを体験できたことにある。このことは将来医療従事者として患者さんのために活動するために必要な学びであり、なおかつ今学生にしかできない取り組みであったと言える。

また、本事業は本年度立ち上がった医学部サークル「瀬戸内地域医療ラボラトリー」のメンバーを中心に活動を行った。その際には小児科の医師、病院スタッフ、医学部学務課といった大学内での協力だけではなく、アーティスト、地元企業、自治体、観光協会やNPO 法人と大学外の団体や個人との協力関係を持ち活動をした。こうした新たな出会いや体験は香川大学でしかなし得なかったものであり、香川県の地域へ愛着や地元へ貢献したいとの思いを強くすることができた。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本年度の反省点としてはまず、制作する作品の最終概要が決まったのが予算申請後であり、予算申請が細かく詰められなかったことや、作品展の場所の変更に伴い交通費の申請が当初とは異なってしまったことで、いただいた予算をすべて使用できなかった点がある。次年度以降には作品の予算について事前にもう少し詳細に決められたらと考えている。また、予想以上にワークショップへの参加希望者が多く、抽選で外れてしまった方に十分に参加機会を与えることができなかった。展示場所での参加ができることや他のイベントの紹介も行うようにしていきたい。

そして今年度制作した作品は今後、小児病棟での展示や、地域での展覧会を行い、2025年に開催される第6回かがわ・山なみ芸術祭に出展予定である。

今回香大生の夢チャレンジプロジェクトを通じて、小児病棟に入院している子どもたち、地域の子どもたちや保護者の方、アーティスト、地元企業、地域の方々、大学の博物館の方と多くのつながりをいただきながら活動を行うことができた。活動のスタートアップを支援していただいたこと、本当にありがとうございました。また次年度は今年度の作品とは別に計画を立てホスピタルアートプロジェクトの活動継続できればと考えている。

7. 実施メンバー

代表者	高木 陽菜（医学部6年）	
構成員	氏原 英敏（医学部6年）	荒木 智尋（医学部6年）
	茂木 貴慧（医学部5年）	青山 治輝（医学部3年）
	浅本 慶千（医学部4年）	鈴木 優那（医学部4年）
	森田 愛望（医学部3年）	大平 大耀（医学部2年）
	坂本 廉太郎（医学部2年）	柴峠 花帆（医学部2年）
	三好 なつ実（医学部2年）	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
講師謝金	1		100,000	
文房具代	1		33,618	
交通費	1		30,960	
合計			164,578	